

町民懇談会（令和元年度 9 月）

- 開催日時：令和元年 9 月 10 日（火）午前 10 時
- 開催場所：矢巾町役場 4 階大会議室
- 参加人数：28 名（ゲストスピーカー、傍聴者、事務局を含む）

ゲストスピーカー

かわ むら ただ し さん
川 村 忠 士

かわ むら ゆ き え さん
川 村 由紀江

さわ ふじ かつ え さん
澤 藤 勝 衛

たか はし かず ひこ さん
高 橋 一 彦

ぬま た まさ こ さん
沼 田 政 子

ふじ わら みず よ さん
藤 原 瑞 代

【町長あいさつ】

本町の太田出身の水本圭治さんが、カヌースプリント男子カヤックフォアで来年の東京オリンピック出場が決まった。来年の東京オリンピックは、第 1 回目開催のギリシャから数えて 32 回目の開催となる。

今回は 40 代から 70 代までの方々に集まっていただき「利便性と発展性を高めるまちづくり」という話題について意見交換させていただく。

【自己紹介】

6 人が自己紹介

【意見交換（各自の発言要旨）】

川村（忠）さん：

- 上杉踏切から矢幅駅の西側に来ると「げんきやはり灸整骨院」のところの交差点、「南昌ケアセンター」のところの交差点に横断歩道がない。これらの交差点は、子どもたちの登下校する道であり、朝夕は多くの子どもたちが通っている。しかし、車の交通量も多く、なかなか子どもたちが横断できないでいるところを目にする。その交差点では、たまに車同士の事故も発生している。このような交差点になぜ横断歩道がつかないのか。基本的に、高速自動車道以外は歩行者優先が大原則です。歩道はつくってあるが、車道でそれを切ってしまうのはどういうことなのか。車道は切

ってでも歩道を繋げるべきではないかと私自身は思っている。一例として私のところの近くの交差点について挙げさせていただいたが、町内には他にも同じようなところがあると思うので、早急に横断歩道を設置してほしい。

町長：

○具体的に場所をお話しいただきましたので確認させていただく。不来方高校の近くにたまにパトカーが止まっているが、横断歩道の手前に人がいても停止しない車の取り締まりを行っている。特に、駅周辺については多くの交通量があるので、警察署や県の交安委員会に要望するなどして設置に向けて取り組んでいきたい。

川村（由）さん：

○先程、川村（忠）さんからお話の関連だが、矢幅駅前ややはば一くの交差点も北南には一時停止の標識があるが、横断歩道をさらに超えて止まる車が多くて非常に危険な交差点であると思っている。信号機が設置になるとの話があるが、いつ設置になるのか。

○私の住んでいるのは東徳田2区だが、矢幅駅前や拓けているところとは違って街灯が少なく、子どもたちが部活を終えて家に帰ってくる頃には外が真っ暗になっている。街灯の設置について過去には地区の運営委員会にもお話ししたことがあるが、実現には至っていない。街灯の設置について要望する。

○徳田小学校ではブランコなどの遊具が使えない状況であり、子どもたちが遊ぶ場所が失われている。東徳田地区に公園をつくり、そこに遊具を設置して子どもたちが遊べるようにお願いしたい。

○町内を走らせるスクールバスのようなものがあれば、親御さんは助かると思う。高齢者の事故が増えている中で、お年寄りもそのようなバスを利用できれば、免許返納につながるのではないかと思うので検討いただきたい。

町長：

○通学路の街灯が少ないので設置してほしいとの要望は、城内地区の地域懇談会でもお話しがあった。安全安心のまちの最重要課題と捉えているので、設置について検討させていただきたい。

○公園設置についても、今後計画的に検討してまいりたい。

○本町と友好交流都市であるフリモント町では、学校に近くても遠くてもスクールバスを利用しているとのこと。将来的にスクールバスについて考えていかなければならない。

○高齢者が免許証を返納しないのは、車が運転できないと病院とか買い物に支障があるからだと思うので、免許証を返納しやすい環境をつくっていくことが大切であるのでこれからの課題である。

澤藤さん：

○矢巾町は人口目標を3万人と掲げているが、不来方高校の新設から岩手医大絡みで

矢巾町は大きく変わってきている。

- 市街化調整区域を市街化区域に編入しようという動きが出ており、市街化区域になれば求める人も多いため、人口3万人の目標はそんなに遠くない将来にクリアできると思う。
- しかし、市街化区域に編入することを求めたから簡単にそのとおりするということには疑問がある。
- 住んでいただきたい方々をイメージしながら、どういう市街地をつくっていくかという形で開発や整備することが必要なのではないかと。
- 町の予算で義務的経費があるが、その中で扶助費はこの10年で約2倍に増えている。これは矢巾町に限ったことではなくて全国的なことである。児童手当の支給対象の拡大や町単独の施策ということもある。我々町民のためにきめ細かな福祉政策をしようという思いが扶助費の増加につながっていると思うが、将来にわたっての財源といった時にどうだろうか。
- 住宅地にして人を呼び込む、あるいは既存のエリアにとってもどういうインフラが必要なのかに着目して、矢巾町を離れないという仕組みを整備していく必要があるのではないかと。狙った層の人口流入を訴求する仕組みづくりが求められるのではないかと。
- 定住者の数は力であると思う。極端な言い方をすると、近隣市町から流入する受け皿に矢巾町がなれば良いと思っている。
- 盛岡市のエリアを考えたときに、仁王小学校や上田中学校、盛岡一高のエリアは昔も今も人気のエリアである。ある方が、10年前に3,000万円で購入して、その後15年して2,500万円売却した。資産価値が全然落ちていない。不動産は流動性があまりないと言われていたが、人気エリアの不動産は流動性が高くて資産価値が高い。なぜかというところ、仁王小学校や上田中学校は学校の運営がしっかりしていて、教育が充実しているからである。上田中学校はナンバースクールへの進学率が高いだけでなく、特別支援学級の盛岡市のセンター校となっており、特別支援の子ども達も安心して教育を受けることができる環境がある。そういうエリアだからこそ、県外から引っ越ししてきた家族は、まずこのエリアを選ぶ。そうした需要があることから資産価値が落ちないし、その後も同じような人たちがエリアを形成している。
- 矢巾町もエッジをつくるのが大事であると思う。平均的なまちづくりをすると、あまり尖がりが出なくなってしまう。今、矢巾町は注目されているところなので、こういう時であるからこそ、選択と集中で矢巾町なりのエッジの効かせ方に特化して、限られた予算を、これからに向けて源流になるようなものに集中して投資をする。平均的なまちづくりの観点からは遅れる地域も出てくるかもしれないが、集中は個性を生み出し、大きな河口へと続く流れになって、そうした地域へもその恩恵は必ず行き渡る。
- とにかく人を呼び込む仕組み、個性をつくる際立たせる公共整備を根本にすることが必要である。

町長：

- 玉虫色や金太郎飴では駄目だということである。メリハリを考えていかなければならない。
- 澤藤さんから、10年で扶助費が2倍になっているという発言がありびっくりした。よく勉強していると感じた。
- 町では扶助費に関係する事業の場合、5年なり10年といった期限を切ることとしている。
- 町民の幸せを守るためには福祉は必要であるが、限られた財源の中で扶助費の割合が高まると立ち往かなくなる。
- 市街化調整区域の地区計画や市街化区域の拡大について、ゾーンを設けてさまざま検討しているが、スプロール（虫食い）現象は避けたいということで、メリハリが大切である。先般、岩手医大の理事長、学長を懇談した際に、岩手医大が矢巾町に来ることによって5万人構想ぐらいのことを考えてもらわなければならないとご意見いただいた。土地利用計画も、岩手医大の周辺の将来を考えたときに5万人構想を考えていかなければならない。

高橋さん：

- スマートインターチェンジから医大に行くアクセス道路の改良を行っている。町道安庭線の交差点は矢巾北中学校と煙山小学校の児童生徒が利用している交差点ということで歩車道分離の信号機となっており、朝は渋滞となっている。右折レーンと左折レーンが出来て交通の便は良くなるが、渋滞は依然として継続するだろうと思っている。交通量が多くなることも考えられ、特に矢巾北中学校の生徒たちは交差点を利用するため、危険性が高くなるのではないかと感じている。そこで、新幹線のピア（橋脚）が並んでいるところに橋台という桁を掛けるところがある。おそらくそもそもアンダーパスなりの計画があった位置であると思われるところが、今回の改良工事をしているところの前後にある。実際に下北地区の圃場整備で創設用地として確保されている。そこを整備し、救急車などはそちらの方を走っていただければ安庭線の交差点は安全なのではないかと思う。
- デイサービスの送迎を8年ほど行っている。道路のわだちで凹凸になっているところや、劣化、凍害等でひび割れたりしているところがある。南矢幅踏切の東側の旧道、駅東街路と接しているT字路や交差点は、普通車では気が付かないが、送迎車で通ると跳ねたりする。送迎車は後部に利用者が車いすに乗っている状態なので、心配しながら運転している。計画的に点検・補修をしてほしい。
- 社会福祉法人で障がい児、障がい者のサービスにも関わっている。駅西にある公園も駅東の公園も新しく、利用者を連れてこれらの駅周辺の公園を利用させていただいている。太陽の下で子どもたちがたくさん走り回ることができて、おじいさん、おばあさんたちが脇で見ていることができるスペースがあれば非常にありがたいと思う。現在、岩崎川河川改修工事に伴い広い広場が整備されており、そこにマレットゴルフ場ができる話が聞こえているが、隣接するところに子どもたちが自由に遊んでも安心して見守れる緑地もつくってほしい。維持管理は、地域の方やシルバー

人材センターに委託するなどして、あまりお金をかけない方法で行うこともできるのではないか。

町長：

- デイサービス車の後ろに並ぶことがあるが、ものすごく慎重な運転をしていることは認識している。
- 道路の凹凸、歩車道分離信号機、アンダーパスのことなどお話しありました件については、早く実態調査をして解決するように努力して行きたい。

沼田さん：

- お菓子づくりは平成21年から始めており、それから毎日配達のため車を運転している。あの当時から比べると、西バイパスにつながったり、スマートインタチェンジができたたり、岩手医大附属病院の前の道路が4車線になったりと道路がとでも良くなってきた（便利になってきた）と思っている。そのおかげで、交通量が各道路に分散され、時間やガソリン代のコストが以前よりもかからなくなっているのだから。
- 紫波町の町道は車の左タイヤがあたるところに下水道のマンホールが設置されている。ちょっと右側に寄せて設置していただければ全く問題ないのと思う。一方、矢巾町の道路は、そのようなところがあまりない。きっと、道路担当と下水道担当で連携を取っているからだと思うので感謝している。
- 農家の人たちは自分の農地を農作業の一環として草刈するのは当然であるが、県道や町道、水路が接している場合も農家が草刈をしている。町でも道路の縁石の泥を片づけたり除草剤をかけたりしている。集落として大変なところは共同で草刈をしているので、きれいに保たれている状態であると思う。
- 耳取地区をみると、農業に就かない、高齢化していることから農業の担い手が少なくなってきた。今年あたりから道路の共同作業については、道路の草刈よりも耕作放棄地のようなところをきれいにしあげようという方向にシフトしてきているようである。
- 矢巾に転入してくる人たちは、とても便利だが自然がたくさんあるというところに魅力を感じて来るのではないかと思う。農家が草刈をしたり、田に稗を生やさないように日々の管理をしているからこそ、矢巾のきれいな田園風景があるのだと思う。住むところは医大周辺でも、休みの日には矢巾温泉やひまわりパークに行こうかとなった時に、田園風景がとてもきれいだと「矢巾って良いところだね」となると思うので、そのような風景を維持するためにも、農業振興について一層の指導と援助をお願いしたい。
- 健康づくりのために歩道を使ってウォーキングやランニングを行っている方々がいる。健康日本一を掲げる矢巾町だからこそ、健康づくり意味で楽しいとか役に立つといった視点での歩道整備をしてみたらどうか。

町長：

- 町道の下水道マンホールの設置について、お褒めの言葉をいただきありがたい。
- 草刈について、地域のみんなで一緒に行えば、刈り終わった後には充実感があり気持ちが良いものである。現在、農地・水環境などの地域の取り組みもあるので、それらの活動を応援しながら、きれいな田園風景を維持していければと考えている。
- 楽しめる歩道整備について、段差を無くしたり、維持補修をしっかりとしなければならぬという思いをあらためて強くさせていただいた。
- 町の社会福祉協議会や福祉・子ども課にもボランティア活動について話をしている。災害時だけのボランティア活動ではなく、常日頃からのボランティア活動ができるように、できるなら旧町民センター食堂を活用してボランティアセンターの核をつくってできないか内部で検討しているところである。

藤原さん：

- 上杉踏切について、もともと混雑する踏切であるが、歩道を設置する工事のために12月まで使用できないということで不便をきたしている。せっかくスマートインタチェンジができたが、そこから自分の店に友達が来るのにとっても迷ったとのことであった。おそらく、標識が不足しているからなのではないかと思うので、わかりやすい標識の設置をお願いしたい。

町長：

- 上杉踏切のところは、もともと車が並ぶところであるが、最近、駅西地区にユニバースやサンデーができたことでさらに渋滞となっている。
- 遮断機がなかなか上がらないということで上杉踏切をアンダーパス（線路の下を通る道路）にすることは、災害時の水害のこと等を考えると難しいと思う。
- 町内には、上杉踏切のほかに、南矢幅踏切、白沢踏切があるが、この2つの踏切を工事する際に、オーバーを検討できるかJRと協議させていただきたい。

【自由意見】

川村（忠）さん：

- 県道矢巾停車場線は、医大が来ると間違いなく矢巾の道路としては顔になると思う。最近、町でも草花を植えたようだ。県道ということで町ではなかなか管理できないとは思いますが、今は無機質で非常にみすぼらしい感じがする。両サイドの歩道には植栽するスペースがあるので、矢巾町が「選ばれるまち」となるように、お金がかかってもしっかりと緑を整備してほしい。立木については、医大のバナーフラッグがあるので低い植え込みできちっと道路の両側を決めたら、すばらしい道路に見えると思う。
- 私は、駅西地区に住んでいるが、昔は農家のえぐねの木がたくさんあった。今は無機質なまちとなってしまった。私たちが小さい頃は、ほたる、蝶、とんぼもたくさん飛んでいた。公園はできたが緑がない。東屋の涼しさと木陰の涼しさは2、3℃

温度が違う。

町長：

- 県道矢巾停車場線について、町ではシンボルロードと名付けており、医大ではバナナフラッグを掲げているし、町でも花を植えさせていただいた。県道ではあるが、県と一緒に取組めば解決できることなので、早速、県と一緒に取組ませていただく。
- 矢幅駅に降り立ったら、そこに花と緑があるとそれだけでも心安らぐと思う。駅西にはフラワータワーがあり称賛されているが、さらに喜んでもらえるように植栽について検討させていただければと思う。

沼田さん：

- 今度、大学の同級会の幹事をする事になった。沼田さんの菊畑が見たいということであったが、秋遅くなので何も無い時期である。それでも、矢巾のことは自慢したいと思っている。施設があってそこに行くのと矢巾町を紹介できて、自慢できる特産物を買える、そして矢巾の食材を使ったおいしい料理をある程度大人数分提供できれば良いなと最近思っている。
- つくば万博の跡地に筑波大学附属病院があり、用事があって行ったことがあった。緑いっぱい囲まれ散歩しても楽しいところである。見舞いに行っても憩うことができたり、買い物するところもある。岩手医大附属病院が矢巾町に来るので、町内で食べたり、買ったりできる施設が出来れば良いなと思う。

町長：

- 医大からは、産直の設置を考えてほしいと言われているので、医大でどのような産直を要望しているのか聞きながら検討していく。
- 道の駅について、盛岡西バイパスから南に延伸する道路が決定してからとなる。あとは、徳丹城歴史民俗資料館の北側に田んぼが2枚あるので、買収させていただき、そこに駐車場と産直ができたという事などを内部で検討中である。

川村（忠）：

- 地域のブロックごとに利用するゴミ集積所が決まっている。私たちが利用している集積所が一番遠いところにある（ユニバース北側）。冬になると道路がアイスバーンで滑るし、ゴミ出しに行くのはほとんどお年寄りである。なぜ、そんなところにゴミ集積所をつくったのか聞いたら、業者が集めやすいように設置場所を決めたとのこと。サービスというのは利用者第一である。利用しやすいように配慮してくれるのがサービスである。業者を大切に、利用者をないがしろにするのはどうなのか。役場のサービスに対する姿勢はどのようになっているのか。
- 本日、この会場に来るときに1階正面玄関から入ってきた。インフォメーションに女性が2人いた。ニコリともしなかつたし、あいさつもなかつた。笑顔に勝るサービスはない。それだけでも人はホッとする。はたして町民第一はあるのか。

町長：

- 利用者本位、町民本位は目指さなければならない仕事である。
- お客様からすると職員も臨時職員もなく職員として見ている。担当課には教育が必要であると言っている。

高橋さん：

- 町では、エンジョイネットワーク事業や健康チャレンジ事業に取り組んでいる。各地区公民館で行っているが、会場まで車もなく歩いて行かなければならない高齢者の方々は、面倒くさがって行かない方もいると聞く。
- 通所事業所は町内にはたくさんある。通所の送迎車は朝と夕方だけ使うがその他の時間帯は車を使用しない。ドライバーの手配さえできれば、上記事業で地区公民館に行かなければならない高齢者の方々の送迎が可能となるのではないかと思う。ただ、法人は規模の大小があるので、町内の全ての通所事業所が賛成するとは限らない。かかる費用についても、取り組みの事業として苦勞すると思うので、町からの感謝状とか、町消防団でも行っているが商工会への協力で商品購入等の割引でも良いと思う。

町長：

- 素晴らしいご提言をいただきありがたい。町内で福祉や介護を行っている事業所で所有しているバスとか車の実態調査をさせていただきたい。町の社会福祉協議会にも送迎の車があり送迎以外は空いていると思うので有効活用できるのではないか。みんなで組み合わせると実施したら大きな力になるのではないかと思う。町で運転者の確保や費用負担しても良いと思うので、ぜひ内部で検討させていただきたい。

澤藤さん：

- 観光にも利用できるのではないかと思う。例えば、矢幅駅からひまわりパークまでの送迎でも良いと思う。矢幅駅からひまわりぱ一くまで歩くのであれば距離があるし、タクシーだと結構高い。ある資源をいかに活用していくかということを考えることは、とても素晴らしい提案だと思う。

町長：

- 例えば、社会福祉法人やシルバー人材センターなどの車について、町の運転手が空いている時間に使わせてもらおうといったことも考えられるのではないか。勿論、保険や何かあった場合の最終責任者については、きっちり定めれば安心であると思うので、このことは内部で検討させていただく。

川村（由）さん：

- 今の話で、バスが空いているのであれば、やはりスクールバスをお願いしたい。夏場については中学生は自転車を通うことができるが、冬場は各家庭が車での送迎となるのでスクールバスでの送迎が必要である。

澤藤さん：

- 特に冬場は、矢巾中学校、矢巾北中学校とも周辺は送迎の車で渋滞する。矢巾町内には通学に不便な地域も多い。子育て世代でそうした地域に住もうという人は少ない。町外からの転入者であれば尚更である。通学の不便さの解消、安全な通学ができる環境を整備することは定住促進の要因にもなるのではないか。

町長：

- あとは実態調査である。スクールバス化して利用を希望する方がどのくらいいるか、障がい者や高齢者で車を利用する方がどのくらいいるかを把握しなければならない。これはデマンド型交通も同様であり、上意下達方式ではなくボトムアップで相応分負担をしても利用したいということであれば良いのではないかと思う。これができれば、全国初の取り組みとなるのではないか。

藤原さん：

- 矢巾町の特産品のPRが上手くまわっていないような気がしている。具体的には、8月に行っていたズッキーニのPR活動について、私も料理を提供する方で参加者させていただいて2年目となるが、イベントを知っている人が少なかったり、ズッキーニ農家でイベントのことを知らなかった人もいた。イベント参加店にスタンプラリーの冊子を持ってくる人も少なかったので、PRにもうひと工夫あれば良かったと思う。
- 町内でPRするのも良いが、町外にもっとPRした方が幅広く広がっていくのではないか。町外にPRしていくにあたって身近なところから攻めていけばよいと思う。この間、滝沢市のビッグルーフで取り扱っている滝沢スイカのスパークリングの販売についてお話をいただいた。1本390円するが、珍しいこともあるのか、お土産にもという声もあり予想よりも売れた。特産品の出し方として、町内はやはぱーく（ヤミィ）でも良いし、町外であればビッグルーフやオガールなど市や町と関わり合いのある施設との間で特産品の交流を行うなどして流通出来れば良いと思う。
- 道の駅や産直が計画されているようだが、今ある施設を有効活用するというのも一つの手であると思う。

阿部観光物産係長：

- 平成26年度から農家さんとズッキーニの産地化について高まっており、町民を含めもっとPRしていききたいということから、昨年ズッキーニフェアを開催しPRしているところです。これに関しては、地域おこし協力隊の藤岡さんと農林係で取り組んでおり、観光物産係としては特産品という観点から一緒に取り組まなければならないが、今年度は関わりが出来ていなかった。先ほど藤原さんから、既存の施設を利用してもっと発信できるのではないかという提言をいただき、まさにその通りであると思うので、ヤミーさんや医大敷地内にオープンするカフェといったところでも町のアンテナショップとしての役割を担いながら町のPRにも努めていきたい

とお話をいただいているので、これをチャンスとして発信していかれたらと考えている。

町長：

- 藤原さんからお話のあった、特産品を町内だけでなく町外にもPRしていくと言うことはその通りである。
- 川村（由）さんからお話しがあった、やはぱ一く交差点の信号設置については、以前から紫波警察署と県公安委員会に要望をしているが、なかなか進んでいないのが現状である。

澤藤さん：

- 既存の施設を利用して特産品のPRをしたらどうかという話があった。施設管理という観点から言えばある程度の規制はなければならないが、やはぱ一く、矢幅駅、各所の公園といった場所がもっと利用しやすいようになり、フェアがある際に物販や飲食も含めて矢幅駅や周辺を上手く利用できれば良いと思う。
- 公園にマレットゴルフ場を整備するお話があったが、高橋さんが提言したように身近に交流が持てるような公園の管理とかも民間に委託出来て、その中で経済活動が行われたり、規制を設けず皆さんが自由にいろんな活動ができるという状況が生まれてくれば、さらにおもしろい町になるのかなと思って聞いていた。

町長：

- 先ほど学校教育のお話しがあったが、できるのであれば県の教育委員会と一緒に、小中高一貫教育について検討していきたい。今後は医大の先生方にも、子どもの教育について矢巾の小中学校を選んでもらえるようにしていきたいし、不來方高校にも大いに期待している。
- 川村（忠）さんからお話のあったゴミ集積所の件について、利用者本位で考えていかなければならない。

川村（由）さん：

- 4人の子育てをしてきたのでいろいろ感じているところがある。先程、矢巾町は小中高一貫での教育ということでお話があったが、給食も高校まであれば親御さんたちは助かるのではないかと思う。給食だが、町内保育園はご飯持参でおかずを出していただいている。小中学校は、ごはん、おかず、たまに果物といったメニューである。保育園のように、ごはんは持参でも良いので、おかずや果物を増やしてほしい。
- 今年の夏休みからだが、気温が高すぎて学校のプールに入れられない状態である。子どもたちにとっては、夏休みの唯一の楽しみであると思うので、例えばプールに屋根を張るとか工夫して対策をとっていただけると学校のプールに入れるのではないか。

町長：

- プールについては、将来ドーム式にして年間使えるように考えておりますがお金がかかるので、企業版のふるさと納税等によりプールを建てられるように努力してい

きたい。

【町長所感】

本日は、ゲストスピーカーの皆さんから、これからの町政に反映していかなければならないありがたいご意見ご提言をたくさんいただきました。われわれ職員一丸となって取り組んでまいりたいと思うのでこれからもよろしくお願いしたい。

また、接遇の件でのご意見もいただきました。町民本位の気持ちで町政を推進してまいりたい。

(1 1 : 5 8 終了)